

登録コード	UAA51500	開講年度	2026			
授業題目	心理学総合演習				担当教員	今井 章 他
					副担当	高瀬 弘樹・岡本 卓也・松本 昇・白井 真理子
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・6 時限	
				授業形態	演習	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				人間と社会を中心とした多種多様な側面を持つ人間の心理に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証することができる。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				人間行動に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する心理学の伝統的な手法を身につけるとともに、さまざまな分野の解析手法を併せて学ぶことにより、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を身につけることができる。	
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				さまざまな心理学領域の総合的な知見を活かし、社会の問題を俯瞰的な視野で捉える能力を獲得することができる。	
(2)授業の概要	実験心理学, 認知心理学, 社会心理学, 記憶心理学, 感情心理学などの領域における, 著名な研究論文を選定し, その原著論文を講読していく。各受講生は毎回, 原著論文を予習し, その内容について考察し, コメントを作成して授業に臨む。オムニバス形式で参加する教員と, 受講生がコメントの発表に基づいてディスカッションをし, 論文の現代的意義について考察を加える。					
(3)授業計画	第01回：授業ガイダンス 第02回：研究論文の探し方 第03回：研究論文の読み方 第04回：実験心理学と基礎心理学の論文検索と選定 第05回：実験心理学における研究論文の講読と議論 第06回：認知心理学の論文検索と選定 第07回：認知心理学における研究論文の講読と議論 第08回：社会心理学における論文検索と選定 第09回：社会心理学における研究論文の講読と議論 第10回：記憶心理学における論文検索と選定 第11回：記憶心理学における研究論文の講読と議論 第12回：感情心理学における論文検索と選定 第13回：感情心理学における研究論文の講読と議論 第14回：心理学における知見の批判的評価方法 第15回：まとめ 期末試験：無 なお、状況に応じて、予告した内容を変更する場合がある。					
(4)成績評価の方法	毎回の授業におけるコメントとその発表(70 %), およびディスカッションへの参加(30 %)によって評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上：秀, 89-80%：優, 79-70%：良, 69-60%：可, 59%以下：不可。					
(5)成績評価の基準	【卓越している】授業での発表と討論に毎回, 的確に参加し, 心理学に関する基礎的な知識をもとに, 適切な情報処理を行い, 論理的に思考し, 数量的に思考し, 自律的に考え, 心理学における実験研究を遂行する力を総合して, 極めて高い水準にある。 【かなり上にある】授業での発表と討論に毎回, 的確に参加し, 心理学に関する基礎的な知識をもとに, 適切な情報処理を行い, 論理的に思考し, 数量的に思考し, 自律的に考え, 心理学における実験研究を遂行する力を総合して, 非常に高い水準にある。 【やや上にある】授業での発表と討論に毎回, 的確に参加し, 心理学に関する基礎的な知識をもとに, 適切な情報処理を行い, 論理的に思考し, 数量的に思考し, 自律的に考え, 心理学における実験研究を遂行する力を総合して, 高い水準にある。 【その水準にある】授業での発表と討論に毎回, 的確に参加し, 心理学に関する基礎的な知識をもとに, 適切な情報処理を行い, 論理的に思考し, 数量的に思考し, 自律的に考え, 心理学における実験研究を遂行する力を総合して, 一定水準にある。					
(6)事前事後学習の内容	毎回の授業への参加にあたっては, 事前に論文を読みコメントを用意してくる必要がある。授業内で議論され, 指摘された点は事後学習の材料とする。					
(7)履修上の注意	心理学についての学部での基礎的知識(心理学概論, 心理学研究法, 心理実験法, 心理統計法)があることを前提に授業を進める。					
(8)質問,相談への対応	授業での疑問は授業内で解決できるよう, 積極的に発言する。その他の場合は, いずれかの担当教員(imaia[kr[at]shinshu-u.ac.jpなど)にアポイントメントを取った上で, 個別に相談する。					
【教科書】	使用しない。					
【参考書】	Hock, R. R. (2012). Forty Studies that Changed Psychology (7th Edition) Pearson: NY 8,598円					